

令和7年9月18日

保護者の皆様

四国中央市三島西中学校 校長 渡部 振一郎

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

秋涼の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。平素は、本校の教育活動につきましてご理解とご協力をいただき、心より感謝しております。

さて、本年度4月に実施されました全国学力・学習調査（中学校3年生対象）の結果がまとまりました。本校では、この分析結果を参考に、授業改善に尽力する所存であります。この調査は、学力の一部であることや、生活習慣・学習習慣も含めて改善していくための一つの手がかりとすることをご理解いただき、ご家庭においても、学校で取り組んでいる家庭学習や睡眠、朝食などの習慣付けについて、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

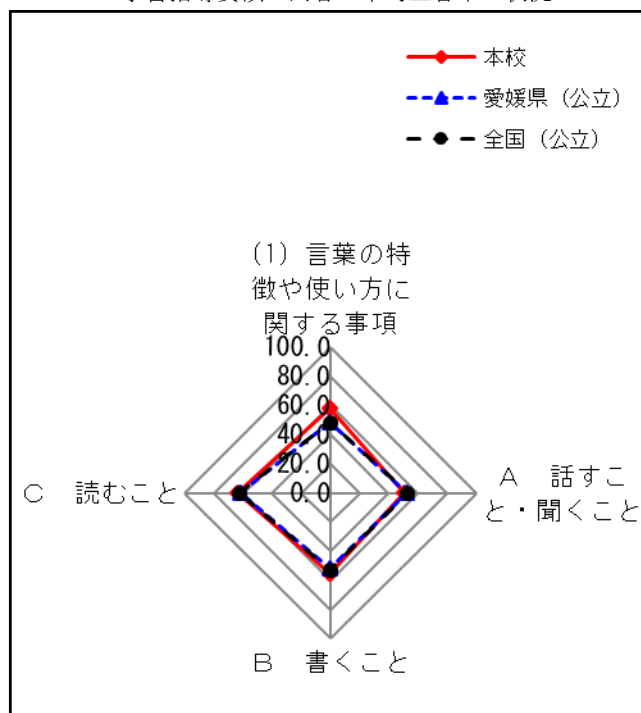
《本校の結果についての分析》

○ 国語

本校の正答率は、各領域で県平均、全国平均をわずかに上回っており、バランスよく国語の力が付いているといえます。また、県平均、全国平均と比べて無回答率が低く、根気よく問題に取り組む姿勢がうかがえます。

本校生徒の課題としては、複数の指示がある記述の問題において、全ての指示内容を満たして解答できず正答につながらないということが挙げられます。今後は、求められている解答を導き出すための問題文の読み方、解答の記述の仕方を身に付けていけるよう、定期テストや課題の出し方に工夫をしていきたいと思います。また、様々な課題に対して柔軟に自分の考えを導き出せるよう、教科書の各教材を通して、考える力を付けていきたいと思います。

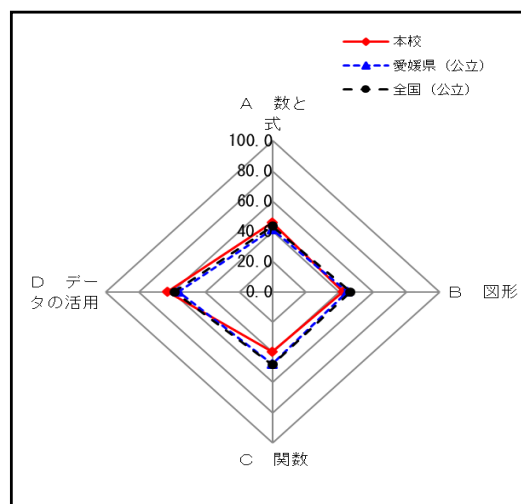
〈学習指導要領の内容の平均正答率の状況〉



○ 数学

「数と式」の領域では、全体的には正答率が高く、計算力が身に付いていることが分かります。しかし、記述式の問題に対して、式を用いて説明することへの苦手意識が見られました。「関数」領域では、県平均や全国平均よりも点数が低く、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかの問題などに課題が残ります。「図形」領域では証明の根拠となる図形の性質の理解は進んでいますが、その性質を用いて証明するなどの表現力を高めていく必要があります。「データの活用」領域では、相対度数の意味を理解している生徒の割合が高く、県平均や全国平均の点数を上回っています。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



今後は、関数・図形領域の復習を繰り返し行うとともに、学習の中で数学的な言語活動を積極的に取り入れ、班活動やペア学習などを通して、適切に説明できる力を養っていきたいと考えています。また、基礎・基本の定着が図れるようクロムブックを活用し、計算練習などの機会を充実させたいと思います。学び合いの時間を更に多く取り入れ、より効率の良い学習の場を設けられるよう努めていききたいと思います。

○ 理科

「粒子」の領域では全体的に正答率は高く粒子に関する考え方が身に付いています。全国の高正答率と比較してもほぼ同じくらいです。この領域の課題は、疑問を解決するために理科の知識を用いる問題の正答率が低いことです。少量の不純物が混ざっていたとしても実験結果に影響する場合があるなどの粒子が与える影響について復習する必要があります。「エネルギー」の領域では正答率が全国平均とほぼ同じでした。どのような条件であれば効率的に電熱線を用いて水の温度を上昇させられるか、科学的に考えることができていました。「粒子・生命」の領域では正答率が全国平均とよりも少し高い結果となりました。人体において、でんぷんが消化されてブドウ糖となる化学変化についてよく理解できていると考えます。「地球」の領域では正答率が全国平均よりも少し低い結果となりました。この領域を苦手とする生徒が多く、本校での正答率は33%でした。全体的にこの領域に関する復習が必要であると考えます。「生命」の領域では正答率は全国平均と同じくらいですが約30%前後と低い結果となっています。消化と吸収の仕組み、呼吸の仕組みについて苦手としている生徒が多いと考えられます。

○ 質問紙

毎日、同じくらいの時刻に起床・就寝している割合が県や全国に比べて高く、規則正しい生活習慣が身に付いていることが分かります。「自分には、良いところがある」や「先生にあなたの良いところを認められていると思う」という質問でも、県や全国に比べ、「ある」「そう思う」と答えた割合はるかに多く、自己有用感を感じている、情緒が安定している生徒が多いことがうかがえます。「学校に行くのが楽しい」、「友達関係に満足している」と答える生徒の割合も多く、学校生活を楽しんでいる様子がうかがえました。

学習習慣においては、「平日の家庭学習時間」、「平日の読書時間」が少ないという結果が出ており、全教科の基礎となる読解力を向上させるためにも、読書と家庭学習の充実が今後の課題になると考えます。

学習面では、どの教科も「得意」だと思っている生徒は少ないですが、数学と理科については「好き」だと思っている生徒は県や全国に比べ多かったです。また、どの教科でも日常的にICT機器を活用しているので、タブレット端末やICT機器を使って表やグラフをまとめたり、発表資料を作成したりすることができる生徒の割合も、県や全国より多かったです。

平日の家庭での過ごし方ですが、勉強に苦手意識を持っている生徒ほど、携帯電話やゲーム等を触っている時間が多く、家庭学習の時間が少ない傾向が見られます。携帯電話やゲームの使用時間の決まりを設けるなど、この機会にご家庭でも話し合われてみてください。